



パラインフルエンザ感染症

5月に入り市中感染症に変化が生じてきています。これまで流行していたRSVやヒトメタ感染症が姿を消してパラインフルエンザ感染症が流行しています。

パラインフルエンザはインフルエンザと名前が似ていますが、全く異なるウイルスです。上気道(鼻、喉)や下気道(気管支、肺)に感染して、発熱、鼻水、咳、喘鳴などの症状を引き起こします。好発年齢は1～3歳の乳幼児で、潜伏期間は3～5日です。発熱は4～5日続くことが多く、鼻水も顕著で、半数以上の方が気管支炎や肺炎などの下気道炎をおこし、完治するまでに7～10日程度かかります。重症化すると入院になることもあります。

パラインフルエンザには抗原検査キットがないので、診断はPCR検査で行います。PCR検査機器がないクリニックでは正確な診断は困難なため、症状が似ているRSVやヒトメタニューモウイルス感染症が抗原検査で否定された場合にパラインフルエンザ感染症を疑うのが一般的です。

残念ながらパラインフルエンザには特効薬はありません。そのため治療は対症療法になります。

家庭看護のポイント (6)

～下痢のときの病院受診のタイミング～

- ①元気がなく、ぐったりしている
- ②食事や水分をとるとその刺激で下痢をする
- ③下痢以外に以下の症状があるとき
機嫌が悪い、食欲がない、腹痛、発熱、嘔吐がある
- ④脱水症状がみられるとき
 - ・水分がとれない
 - ・尿が半日以上出ない
 - ・尿が少なく、色が濃い
 - ・唇や口の粘膜が乾いている

下痢の時は、その原因よりも重症かどうか大切です。脱水があると思ったら早急に家庭で経口補水療法を始めましょう。



5月の感染症情報

4月に流行した感染性胃腸炎は5月に入り下火になりましたが、後半から再び急増しています。突然の腹痛、嘔吐で発症するお子さんが多い印象です。

その他、溶連菌感染症、パラインフルエンザ感染症が流行し、アデノウイルス感染症も散見されました。百日咳は持続的な発生があり、今治管内で4月と5月の2ヶ月間で31例の届け出がありました。小学校高学年と中学生に多くの発生がみられています。



5月の利用状況

5月の利用延べ人数は106人、1日平均利用人数は5.3人でした。年齢別では、1歳児が36人で最も多く、次いで2歳児の30人でした。疾患別では急性上気道炎が72人で最も多く、次に急性気管支炎11人、溶連菌感染症6人の順でした。

5月も寒暖差が大きい日が続いたせいか、鼻水と一過性に発熱がでる鼻風邪のお子さんの入室が目立ちました。5月は新しく入園して疲れがでてくる時期です。何度も風邪をひいて繰り返しご利用いただいたお子さんもいます。こんなときにお役に立てるのが病児保育です。遠慮なくご利用ください。